

# 令和3年度事業報告書

自 令和3年4月1日  
至 令和4年3月31日

## 第1 職業能力評価に係る基盤の整備・充実

事 項	実 施 状 況
1 良質な技能検定試験問題等の作成と技能検定制度の普及促進	<p>(1) 技能検定試験問題等の作成</p> <p>検定職種（作業）ごとに中央技能検定委員会を開催し、現場における技術・技能の動向等を踏まえるとともに、都道府県職業能力開発協会（以下「都道府県協会」という。）の実施経費低減並びに受検者増を目指した良質な試験問題及びその実施要領を作成した。</p> <p>また、外国人に対する技能実習制度に係る職種（作業）について、試験問題等の作成を行った。</p> <p>ア 等級別作業数 669作業 [714作業]</p> <p>イ 技能検定受検申請者総数 263,183名 [211,294名]</p> <p>注 [ ] 内は令和2年度実績</p> <p>なお、[ ] 内の数字、令和2年度の前期試験は、新型コロナウイルス感染拡大により、全職種(作業)が中止となった。</p> <p>(2) 技能検定制度の普及・促進</p> <p>ア 前期より新規に実施となった1・2級プラスチック成形（真空成形作業）については、300名を超える受検申請となった。</p> <p>また、次年度以降の継続的な受検者確保に向け、業界団体と連携して受検勧奨を行った。</p> <p>イ 1・2級放電加工（レーザ加工作業）について、令和5年度からの新規実施に向けて、試験問題の作成審議を行った。</p> <p>ウ 全国工業高校校長会とジュニアマイスター顕彰制度に係る意見交換を含む3級受検勧奨を行った。</p>

事 項	実 施 状 況										
(3) 技能検定試験業務の指導	<p>ア 都道府県、都道府県協会、都道府県技能検定委員に対し、課題内容、採点基準、試験用機材・設備、試験実施に係る留意事項の説明等を行うことより、全国的水準の統一を図ることを目的とした技能検定実技試験水準調整会議を開催し、技能検定実技試験実施についての技術的な業務指導を行った。</p> <p>[前期] 5月13日 3級とび（とび作業） 5月14日 1・2級防水施工（アクリル系塗膜防水工事作業） [後期] 11月5日 1・2級婦人子供服製造（婦人子供既製服縫製作業）</p> <p>イ 防水施工（アクリルゴム系塗膜作業）、とび（とび作業）、左官（左官作業）など20箇所の技能検定実技試験会場を訪問、視察し、都道府県技能検定委員等から技能検定試験の課題内容等について意見等を聴取した。</p>										
(4) 各都道府県協会技能検定担当課長会議の開催	<p>全国 47 都道府県協会の検定担当課長等へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能検定実施に係る国（厚労省）からの情報提供</li> <li>・全国の技能検定実施状況報告</li> <li>・技能検定実施に係る連絡事項</li> <li>・都道府県協会からの意見・要望への回答</li> </ul> <p>などの情報を配信し、Web による意見交換等を行った</p> <p>[前期] 試験実施期間（6月上旬～9月中旬）前の5月13日 [後期] 試験実施期間（12月上旬～2月中旬）前の11月4日</p>										
(5) 技能士実態調査の実施	<p>建設業界団体に所属する事業所の人事・総務・労務・担当管理者を対象とした技能検定の活用状況・ニーズ等に係る調査を実施した。</p>										
2 CS試験によるパソコンスキル等の能力評価試験の推進											
(1) コンピュータサービス技能評価試験の実施	<p>ア コンピュータサービス技能評価試験の実施</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">(ア) 受験申請者総数</td> <td style="text-align: right;">33,392名 [33,391名]</td> </tr> <tr> <td>    ・ワープロ部門</td> <td style="text-align: right;">16,566名 [16,984名]</td> </tr> <tr> <td>    ・表計算部門</td> <td style="text-align: right;">16,424名 [16,039名]</td> </tr> <tr> <td>    ・情報セキュリティ部門</td> <td style="text-align: right;">402名 [ 368名]</td> </tr> <tr> <td>(イ) 合格者総数</td> <td style="text-align: right;">28,313名 [28,462名]</td> </tr> </table> <p>イ コンピュータサービス技能評価試験の広報周知</p> <p>CS試験認定施設の新規開拓、受験申請者数の維持・拡大に向け、</p>	(ア) 受験申請者総数	33,392名 [33,391名]	・ワープロ部門	16,566名 [16,984名]	・表計算部門	16,424名 [16,039名]	・情報セキュリティ部門	402名 [ 368名]	(イ) 合格者総数	28,313名 [28,462名]
(ア) 受験申請者総数	33,392名 [33,391名]										
・ワープロ部門	16,566名 [16,984名]										
・表計算部門	16,424名 [16,039名]										
・情報セキュリティ部門	402名 [ 368名]										
(イ) 合格者総数	28,313名 [28,462名]										

事 項	実 施 状 況
<p>3 ビジネス・キャリア 検定試験の普及拡大</p> <p>(1) ビジネス・キャリア 検定試験の実施</p>	<p>次の広報周知を行った。</p> <p>(ア) 公的職業訓練等での活用が可能な「テキスト&amp;問題集」について、応用問題を追加した改訂版の作成</p> <p>(イ) CS試験認定施設等へのポスター・パンフレットの配付</p> <p>(ウ) ホームページ上においてCS試験認定施設から情報収集したCS試験活用事例・合格者の声の紹介</p> <p>40都道府県協会の協力を得て、全国47都道府県において、令和3年度から再開した1級企業法務を加えた8分野44試験区分（1級・2級・3級・BASIC級）の試験を実施した。</p> <p>受験申請者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年度の実績を上回り、過去最高となった（対前年度比1,631名・5%増・目標達成率103%）。</p> <p>(ア) 受験申請者数 33,850名 [32,219名]</p> <p>(イ) 合格者数 14,849名 [15,238名]</p> <p>(ウ) 実施試験区分 8分野44試験区分 [8分野43試験区分]</p> <p>(1級) 人事・人材開発・労務管理、経理・財務管理、営業・マーケティング、生産管理、企業法務、ロジスティクス、経営情報システム、経営戦略</p> <p>(2級) 人事・人材開発、労務管理、経理、財務管理(財務管理・管理会計)、営業、マーケティング、生産管理プランニング(製品企画・設計管理)、生産管理プランニング(生産システム・生産計画〔加工型・組立型〕)、生産管理プランニング(生産システム・生産計画〔プロセス型〕)、生産管理オペレーション(作業・工程・設備管理)、生産管理オペレーション(購買・物流・在庫管理)、企業法務(組織法務)、企業法務(取引法務)、総務、ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション、経営情報システム(情報化企画)、経営情報システム(情報化活用)、経営戦略</p> <p>(3級) 人事・人材開発、労務管理、経理(簿記・財務諸表)、経理(原価計算)、財務管理、営業、マーケティング、生産管理プランニング、生産管理オペレーション、企業法務、総務、ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション、経営情報システム、経営戦略</p> <p>(BASIC級) 生産管理、ロジスティクス</p>

事 項	実 施 状 況
(2) 効果的なプロモーションの推進	<p>ア 顧客情報の収集・分析等  受験申請者・企業への受験申請時アンケート及び WEB 広告データの収集・分析を継続するとともに、一括申請企業における活用状況等に関するアンケートを実施し、企業活用事例の収集とホームページ等での公開を行った。</p> <p>イ ターゲットを明確にしたプロモーション  厚生労働省(ロジスティクス分野：経済産業省/国土交通省)の後援名義を活用しながら、分野別リーフレット、企業向けリーフレットといったターゲットに応じた広報媒体の作成・配付や WEB 広告を実施するとともに、ホームページや SNS (Youtube・Facebook) を活用したプロモーションを行った。  また、都道府県協会の協力を得ながら、技能検定活用企業等による一括申請の新規開拓を推進した。</p>
(3) 事業基盤の強化	<p>ア 試験体系の整備等  平成22年度の自主事業化以降休止していた1級企業法務について、令和3年度前期試験から再開した。  また、試験問題作成においては、Web 会議システムを有効活用することで委員会審議をオンライン化し、運営の効率化を図った。</p> <p>イ 学習支援の充実  試験基準と対応した標準テキストについては、社会経済や技術革新の動向、諸制度等の見直しが反映されたものとなるよう、概ね5年サイクルで改訂している。令和3年度においては、「働き方改革関連法」の施行に伴う2・3級労務管理の追補を作成・公開したほか、2級経営情報システム(情報化企画・情報化活用)の改訂版を発刊した。  また、生産管理、経営戦略及び労務管理の各分野について、標準テキストの改訂作業を実施したほか、学習環境の一層の充実を図るため、2級経営情報システムの過去問題解説集の作成作業を行った。</p> <p>ウ 試験実施体制の整備  都道府県協会等の関係機関と連携し、全都道府県で試験を実施した。  また、企業等の自社施設において試験を実施する試験実施認定施設認定要領を改正し、その活用促進を図った。  なお、試験実施における新型コロナウイルス感染症対策のため、ガイドライン、業務マニュアル等を改定するとともに、大都市圏において会場を複数設置し、リスク分散を図った。</p>

## 第2 職業生活を通じたキャリア形成の支援

事 項	実 施 状 況
<p>1 企業におけるキャリア形成の促進</p> <p>(1) キャリア形成支援ツールの活用促進及びセミナー・研修の効果的な実施</p>	<p>企業が行う従業員のキャリア形成支援を推進するために、企業の人事・人材育成担当者を対象としたキャリア形成支援セミナーを開催するとともに中央協会が開発したキャリア形成支援ツール（CADS&amp;CADI）を活用したセミナーを開催した。</p> <p>また、役職定年や定年再雇用のシニア世代になっても生き生き働き続けることを目的に、40代半ば以降の従業員を対象として行う研修（キャリア・シフトチェンジのためのワークショップ）を実施できるインストラクター養成研修を実施した。</p> <p>ア キャリア形成支援セミナー（3回）</p> <p>第1回開催</p> <p>(ア) 開催日：令和3年10月20日</p> <p>(イ) 場 所：オンライン配信</p> <p>(ウ) 受講者：15名</p> <p>第2回開催</p> <p>(ア) 開催日：令和3年12月9日</p> <p>(イ) 場 所：オンライン配信</p> <p>(ウ) 受講者：8名</p> <p>第3回開催</p> <p>(ア) 開催日：令和4年2月9日</p> <p>(イ) 場 所：オンライン配信</p> <p>(ウ) 受講者：8名</p> <p>イ CADS&amp;CADIオンライン活用セミナー（1回）</p> <p>(ア) 開催日：令和3年11月8日</p> <p>(イ) 場 所：オンライン配信</p> <p>(ウ) 受講者：45名</p> <p>ウ キャリア・シフトチェンジのためのワークショップインストラクター養成研修（全4回）</p> <p>第1回開催</p> <p>(ア) 開催日：令和3年9月30日、10月1日</p> <p>(イ) 場 所：飯田橋レインボービル（東京都）</p>

事 項	実 施 状 況
<p>(2) 企業からの要望に基づく受託研修の実施</p> <p>2 労働者の主体的な能力開発に対する適切な情報提供</p>	<p>(ウ) 受講者：17名</p> <p>第2回開催  (ア) 開催日：令和3年10月28日、29日  (イ) 場 所：A P大阪梅田東（大阪府）  (ウ) 受講者：14名</p> <p>第3回開催  (ア) 開催日：令和3年12月2日、3日  (イ) 場 所：飯田橋レインボービル（東京都）  (ウ) 受講者：14名</p> <p>第4回開催  (ア) 開催日：令和4年2月3日、4日  (イ) 場 所：飯田橋レインボービル（東京都）  (ウ) 受講者：11名</p> <p>従業員のキャリア形成等を目的とした研修の実施依頼に対して、中央協会が開発したキャリア形成支援ツール及び研修プログラムによる受託研修を実施した。</p> <p>(ア) 受託企業数：2社  (イ) 実施回数：12回  (ウ) 受講人数：270名</p> <p>労働者の自発的な職業能力開発の取組に対する支援及び環境整備として、「教育訓練給付制度講座検索システム」に専門実践教育訓練指定講座、特定一般教育訓練指定講座及び一般教育訓練指定講座に関する情報を提供した。</p> <p>また、当該講座指定を希望する教育訓練施設の申請に関する調査を行うとともに、当該教育訓練施設からの相談対応を行った。</p> <p>(参考) 指定講座の概要</p> <p>○専門実践教育訓練</p> <p>指定講座数：2,584講座（通学制：2,077件、通信制：507件）</p> <p>業務独占・名称独占資格の養成課程：1,579講座</p> <p>専門学校の職業実践専門課程</p> <p>・キャリア形成促進プログラム：690講座</p> <p>専門職学位課程：91講座</p> <p>大学等の職業実践力育成プログラム：136講座</p>

事 項	実 施 状 況
	<p>一定レベル以上の情報通信技術養成課程：3講座 第四次産業革命スキル習得講座：85講座</p> <p>教育訓練施設数：1,303施設</p> <p>○特定一般教育訓練 指定講座数：484講座（通学制：365件、通信制：119件） 教育訓練施設数：164施設</p> <p>○一般教育訓練 指定講座数：11,177講座（通学制：8,820件、通信制2,357件） 教育訓練施設数：1,646施設</p> <p>（出所：厚生労働省（令和3年10月1日現在））</p>

### 第3 ものづくり日本を支える技能の継承・発展及び振興

事 項	実 施 状 況
<p>1 若年者ものづくり 競技大会</p> <p>(1) 技能競技大会の実 施</p>	<p>第16回若年者ものづくり競技大会を、厚生労働省との共催により愛媛国際貿易センター [アイテムえひめ] 他、全4会場で以下のとおり開催した。</p> <p>なお、本大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、入場制限を行った。</p> <p>ア 開催日程：令和3年8月4日～8月5日※</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月4日 競技会場の下見、工具展開、職種別の開会式 ※</li> <li>・8月5日 競技実施 ※</li> </ul> <p>[※旋盤職種は8月2日から8月5日、フライス盤職種は8月1日から8月5日の間]</p> <p>全競技終了後、受賞者選考のための技術委員会を開催し入賞者を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月6日 ホームページにて、入賞者を発表した。</li> </ul> <p>今大会の入賞者は、金賞17人、銀賞27人、銅賞27人、敢闘賞52人であった。金賞受賞者に、厚生労働大臣賞として楯を授与した。</p> <p>イ 開催場所：愛媛国際貿易センター [アイテムえひめ]、愛媛県武道館、愛媛職業能力開発促進センター [ポリテクセンター愛媛]、日産愛媛自動車大学校 4会場</p> <p>ウ 競技職種：15職種を実施</p>

事 項	実 施 状 況
(2) ものづくり技能に関する啓発活動等	<p>メカトロニクス、機械製図（CAD）、旋盤、フライス盤、電子回路組立て、電気工事、木材加工、建築大工、自動車整備、IT ネットワークシステム管理、ウェブデザイン、業務用 IT ソフトウェア・ソリューションズ、グラフィックデザイン、ロボットソフト組込み、造園</p> <p>エ 参加選手：330 人</p> <p>オ 来場者：2,474 人</p> <p>カ 大会要綱：技術委員会、競技委員会及び運営委員会の各設置要綱を作成した。</p> <p>キ 大会運営：競技委員会や技術委員会により、競技会場の検討、課題の作成、入賞者の決定等を行った。また、入賞者に対するメダル等を作成し配布した。</p> <p>ク 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、愛媛県、NHK、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、公益財団法人産業教育振興中央会、職業能力開発総合大学校、一般社団法人全国技能士会連合会、公益社団法人全国工業高等学校長協会、一般社団法人全国高等学校 P T A 連合会、全国専修学校各種学校総連合会、全国中小企業団体中央会、全国農業高等学校長協会、都道府県職業能力開発協会、株式会社日刊工業新聞社、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本労働組合総連合会</p> <p>競技内容の理解や本大会への来場促進を図るため、以下のとおり広報等を行った。</p> <p>ア ガイドブック（参加選手名簿、競技課題等を掲載）の作成・配付  (ア) 作成部数：1,400 部  (イ) 配付先：競技委員、選手、来場者等へガイドブックを配付した。</p> <p>イ 技能五輪全国大会成績優秀者等によるデモンストレーションの実施  (ア) 実施日：令和3年8月5日  (イ) 実施場所：愛媛国際貿易センター [アイテムえひめ]、愛媛職業</p>



事 項	実 施 状 況
<p>(3) アンケートの実施</p> <p>(4) その他</p> <p>2 技能五輪全国大会</p> <p>(1) 技能競技大会の実施</p>	<p>能力開発促進センター [ポリテクセンター愛媛]</p> <p>(ウ) 実施職種：電子回路組立て、電気工事、旋盤及びフライス盤</p> <p>ウ ホームページを活用した情報の提供</p> <p>(ア) 掲載内容：競技課題のほか、直接会場に来場できない方のために、競技スケジュールや参加者名簿を掲載し、本大会を紹介した。</p> <p>(イ) 掲載先：中央職業能力開発協会のホームページ</p> <p>(ウ) アクセス数：282,710件 (令和3年4月1日～令和4年3月31日現在)</p> <p>来場者、選手及び選手所属機関等を対象に、今後の大会運営の参考等とするため、以下のとおりアンケートを行った。</p> <p>ア 内 容：性別、年齢層、本大会の認識状況、参加職種、組織の種類、人材養成への貢献度、次回大会への参加意向 等</p> <p>イ 回収状況：来場者分 397 件、参加選手分 174 件、選手所属機関 200 件のアンケートを回収した。</p> <p>ウ 結果概要：一般来場者（若年層）に対するアンケートにおいて、「このような技能競技大会への参加、技能検定の受検を目指したいと思うようになった」と回答した割合が 94.1%であった。</p> <p>大会終了後、競技結果（順位、得点）についての情報提供窓口を設置し、情報提供を行った。</p>
<p>(1) 技能競技大会の実施</p>	<p>第 59 回技能五輪全国大会を東京都との共催により、東京ビッグサイト他、全 14 会場で以下のとおり開催した。</p> <p>なお、本大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場への入場を選手・関係者等に限定した。</p> <p>ア 開催日程：令和3年12月17日～20日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月17日 競技会場の下見、工具展開</li> <li>・12月18日 競技実施 [一部職種は先行して実施]</li> <li>・12月19日 全競技が終了。その後、受賞者選考のための技術委員</li> </ul>

事 項	実 施 状 況
	<p>会を開催し入賞者を決定した。</p> <p>・12月20日 インターネットライブ配信による閉会式において、大会の入賞者（金賞44人、銀賞78人、銅賞96人、敢闘賞165人）を発表した。</p> <p>なお、入賞者には、メダルと賞状を授与し、金賞受賞者には厚生労働大臣賞として、賞状と記念の楯を授与した。また、最優秀選手団には厚生労働大臣賞として、優秀選手団には人材開発統括官賞、中央職業能力開発協会会長賞または全国技能士会連合会会長賞として賞状と記念の楯を授与した。</p> <p>イ 開催場所：東京ビッグサイト、都立中央・城北職業能力開発センター板橋校、都立城南職業能力開発センター大田校（大鳥居旧校舎）、都立城東職業能力開発センター、都立多摩職業能力開発センター、都立多摩職業能力開発センター府中校、都立木場公園、東京都港湾局用地、千葉職業能力開発促進センター〔ポリテクセンター千葉〕、千葉職業能力開発促進センター高度訓練センター〔高度ポリテクセンター〕、大田区産業プラザ PiO、学校法人啓倫学園 国際製菓専門学校、学校法人誠心学園 東京誠心調理師専門学校、学校法人後藤学園 武蔵野調理師専門学校 14会場</p> <p>ウ 競技職種：42職種を実施</p> <p>機械組立て、プラスチック金型、精密機器組立て、メカトロニクス、機械製図、旋盤、フライス盤、構造物鉄工、電気溶接、試作モデル製作、タイル張り、自動車板金、曲げ板金、配管、電子機器組立て、電気、工場電気設備、石工、左官、家具、建具、建築大工、貴金属装身具、フラワー装飾、美容、理容、洋裁、洋菓子製造、自動車工、西洋料理、造園、和裁、日本料理、レストランサービス、車体塗装、冷凍空調技術、ITネットワークシステム管理、情報ネットワーク施工、ウェブデザイン、とび、時計修理、移動式ロボット</p> <p>エ 参加選手：1,028人</p> <p>オ 大会要綱：技術委員会、競技委員会及び運営委員会の各設置要綱を作成した。</p>

事 項	実 施 状 況
<p>(2) 第 59 回技能五輪全国大会への出場選手選考</p>	<p>カ 大会運営：運営委員会・競技委員会・技術委員会により、競技会場の検討、課題の作成、入賞者の決定等を行った。</p> <p>キ 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、都道府県（東京都を除く）、都道府県職業能力開発協会、NHK、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、職業能力開発総合大学校、一般社団法人全国技能士会連合会、全国専修学校各種学校総連合会、全国中小企業団体中央会、全国農業高等学校長協会、株式会社日刊工業新聞社、一般社団法人日本経済団体連合会、一般社団法人日本産業訓練協会、日本商工会議所、日本労働組合総連合会、公益社団法人全国工業高等学校長協会、東京メトロポリタンテレビジョン株式会社</p> <p>工業高校生等に対して、技能五輪全国大会への出場機会を与えるとともに、出場レベルの技能を有している者を選考するため、以下のとおり選考を行った。</p> <p>ア 実施職種、開催日及び開催場所  「メカトロニクス」、「自動車整備」、「IT ネットワークシステム管理」※、「ウェブデザイン」、「ロボットソフト組込み」職種</p> <p>(ア) 開催日：令和3年8月4日～8月5日  ※「IT ネットワークシステム管理」は令和3年8月2日～8月3日</p> <p>(イ) 開催場所：愛媛国際貿易センター [アイテムえひめ]、日産愛媛自動車大学校</p> <p>イ 結果  上記アの各職種について、上位選手3名（IT ネットワークシステム管理は2名）が第59回技能五輪全国大会への出場権を得た。</p>
<p>(3) ものづくり技能に関する啓発活動等</p>	<p>ホームページを通じて、以下のとおり広報等を行った。</p> <p>ア ホームページを活用した情報の提供  (ア) 掲載内容：競技課題のほか、直接会場に来場できない方のために、競技スケジュールや参加者名簿を掲載し、本大会を紹介した。</p>

事 項	実 施 状 況
(4) アンケートの実施	<p>(イ) 掲 載 先：中央職業能力開発協会のホームページ  (ロ) アクセス数：844,039 件  (令和3年4月1日～令和4年3月31日現在)</p> <p>来場者、選手及び選手所属機関等を対象に、今後の大会運営の参考等とするため、以下のとおりアンケートを行った。</p> <p>ア 内 容：性別、年齢層、本大会の認識状況、参加職種、組織の種類、人材養成への貢献度、次回大会への参加意向 等</p> <p>イ 回収状況：来場者分1,140件、参加選手分330件、選手所属機関265件のアンケートを回収した。</p> <p>ウ 結果概要：一般来場者（若年層）に対するアンケートにおいて、「将来、このような技能競技大会への参加、技能検定の受検を目指したいようになった」と回答した割合が91.5%であった。また、「本大会を見て、将来のキャリア形成に向けた技術・技能の向上など、自身の職業能力の習得に意欲を持った」と回答した割合が98.9%であった。</p>
(5) その他	<p>大会終了後、競技結果（順位、得点）についての情報提供窓口を設置し、情報提供を行った。</p>
3 二次予選会の実施	
(1) 予選会の運営	<p>旋盤職種、電子機器組立て職種及びメカトロニクス職種については、以下のとおり二次予選会を行い、技能五輪全国大会への参加人数の調整を行った。</p> <p>なお、本予選会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適切な措置を講じて開催した。</p> <p>ア 旋盤職種  (ア) 開 催 日：令和3年7月31日、8月1日  (イ) 開催場所：日立工業専修学校、ポリテクセンター中部、ポリテクセンター関西  (ロ) 参加選手：78人</p> <p>イ 電子機器組立て職種</p>

事 項	実 施 状 況
(2) ものづくり技能に関する啓発活動等	<p>(ア) 開催日：令和3年8月25日  (イ) 開催場所：MEETING SPACE AP名古屋  (ウ) 参加選手：49人</p> <p>ウ メカトロニクス職種  (ア) 開催日：令和3年9月3日  (イ) 開催場所：AP名古屋  (ウ) 参加選手：34人</p> <p>ホームページを通じて、以下のとおり広報等を行った。</p> <p>ア ホームページを活用した情報の提供  (ア) 掲載内容：競技課題のほか、直接会場に来場できない方のために、競技スケジュールや参加者名簿を掲載し、本予選会を紹介した。  (イ) 掲載先：中央職業能力開発協会のホームページ</p>
(3) その他	<p>予選会終了後、競技結果（順位、得点）についての情報提供窓口を設置し、情報提供を行った。</p>
4 国際大会派遣者の選定	
(1) 国際大会への派遣者の選定	<p>ア 国際大会への派遣者の選定  技能五輪全国大会、選手選考会等により適切に日本代表選手を選定した。  また、エキスパートについては、必要要件を設定し、職種別分科会からの推薦に基づき、要件を満たす者を選定した。選手においては52職種60名が決定、エキスパートにおいては51職種51名が決定した。</p> <p>イ 派遣者等の登録手続  大会主催者が準備する登録システムの機能を把握した上で、必要とされる仮登録手続等を行った。</p> <p>ウ オリエンテーションの実施  技能五輪国際大会の競技運営体制、大会までのスケジュール等の情報を提供するとともに、日本選手団としての選手、エキスパートの意識向上のために開催した。  なお、当初は対面で行うことを予定していたが、新型コロナウイルス</p>

事 項	実 施 状 況
	<p>ス感染症の感染拡大防止のため、リモートで実施した。 (7) 開催日：令和4年2月10日</p> <p>エ 通訳公募、選考、研修 令和2年度に選考した通訳に加え、一般に公募を行い、通訳会社が登録している通訳と公募への応募者を合わせて選考委員会により適切な通訳を選定した。 応募者には、映像を用いてオンラインにより事前に国際大会に関する基礎知識・現状、通訳体験談などの内容を把握することを要件とし、確認テストを実施した。</p> <p>ア WorldSkills Japan National Team Building Camp の実施 選手のモチベーションの維持、交流促進のためにグループワーク、研修等を行った。 なお、当初は対面で行うことを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートで実施した。 (7) 開催日：令和3年9月13日～15日</p> <p>イ 選手等の士気高揚につなげるため、グラフィックデザイン職種の日本代表選手がデザインを手がけ、選手投票によりデザインを決定し、大会で使用するブルゾン、ポロシャツを作成した。</p>
<p>5 国際大会に向けた選手等の競技力強化</p> <p>(1) 技能五輪国際大会選手強化委員会の設置</p> <p>(2) 職種別分科会等の設置</p>	<p>令和2年度技能五輪国際大会選手強化委員会での検討事項を引き継ぎ、選手の競技力強化策等について検討を行った。 ・実施時期：令和3年5月17日、9月6日、11月17日、令和4年3月14日 4回 ・委員：ワールドスキルズ日本技術代表、国際大会に豊富な知見を有する学識経験者、国際大会に選手を出場させている企業又は団体に所属する者等</p> <p>ア 職種別分科会 ・実施時期：令和3年4月～令和4年3月 職種ごとに実施 ・委員：カザン大会のエキスパート・選手、上海大会のエキスパート、日本代表選手所属企業・業界団体の指導者等</p> <p>イ 職種別分科会長会議</p>

事 項	実 施 状 況
	<p>当初は、対面形式での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面開催形式で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期：令和3年6月 書面開催 1回</li> <li>・委 員：各職種分科会長等</li> </ul> <p>ウ 職種横断的な戦略検討チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期：令和3年7月1日、令和4年3月17日 2回</li> <li>・委 員：学識者、企業群が複数の職種にわたり主体的に活動している製造系職種等の企業関係者、製造系以外の業界団体関係者等</li> </ul> <p>エ 職種横断的な活動支援チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期：令和3年6月24日、令和4年3月17日 2回</li> <li>・委 員：建設系、アート・ファッション系及びサービス系職種の企業・学校・業界団体関係者等</li> </ul>
(3) 強化訓練への支援等	<p>上記(2)アの職種別分科会において策定された強化訓練計画、エキスパート養成計画等に基づき、強化訓練等を実施した。また、24職種についてコンサルティングを実施するとともに、強化訓練に係る各種研修や材料等の支援を行った。</p>
(4) 職種存続に向けたハイブリッド合同訓練等の実施	<p>オンラインによる公開訓練を実施したが、新型コロナウイルスの影響により、日本に招聘しての実施はできなかった。 (「プラスチック金型」、「試作モデル製作」職種)</p>
(5) 全国大会における職種競技実施に向けた競技会への支援	<p>競技大会実施のための要項を策定し、ビューティセラピー職種及びホテルレセプション職種について、業界団体からの申請に基づき、材料や競技委員等の旅費等の支援を行った。</p>
(6) 企業等間の連携の仲介等	<p>企業等間の連携の仲介を職種別分科会、分科会長会議、職種横断的検討チーム、職種横断的戦略検討チーム等を通じて行うと共に、必要に応じてカザン大会終了後にエキスパートから収集した関係資料を提供した。</p>
6 国際大会の招致に関する検討等	<p>令和3年度中には招致関連業務は行わないこととなった。</p>

事 項	実 施 状 況
<p>7 若年技能者人材育成支援等</p> <p>(1) 地域における技能振興</p>	<p>ア 地域における技能振興事業の支援等</p> <p>(ア)周知・広報支援</p> <p>周知・広報活動事業者が策定した中央技能振興センター（以下「センター」という。）で行う技能競技大会展・技能士展及び地域技能振興コーナー（以下「コーナー」という。）が行う地域技能振興事業のプロモーション計画案について、プロモーション委員会を年2回開催し、検討及び検証を行った。</p> <p>(イ)ブロック開催の技能振興事業の実施</p> <p>全国を6ブロックに分けて、各ブロックで1回ずつ、各コーナーと協力しながら、技能競技大会展及び技能士展を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、厚生労働省の指示を受け中止した。代替措置として、ものづくり体験やVR動画の内容を拡充し、オンラインで実施した。</p> <p>(ウ)「地域発！いいもの」応援事業</p> <p>各地域で行われている技能振興に資する取組み・制度等について広く国民への周知を図るため、「地域発！いいもの」応援事業として、年1回の募集を行った。選定委員会の審査を経て9事例が選定され、令和4年3月4日に厚生労働省から報道発表が行われた。</p> <p>また、令和2年度に選定された7事例を取材し、ポータルサイト「技のとびら」に掲載した。</p> <p>(エ)グッドスキルマークの認定</p> <p>技能検定制度のさらなる周知・普及を図るため、一級技能士又は単一等級技能士が製作した、あるいは製作に関わった場合にのみ、製品又は作業現場等に表示できるグッドスキルマークについて年2回の募集を行い、審査委員会の審査を経て86件を認定した。</p> <p>また、グッドスキルマークに認定された製品等を製作している事業所8箇所について取材を行い、事例集を作成し、令和2年度及び令和3年度に認定された製品等とともにWEBコンテンツ化してポータルサイトに掲載した。</p> <p>(オ)入職促進ガイドブックのWEBコンテンツ化</p> <p>建設系の専門家1名、建設系の事業所5箇所を取材し、入職促進ガイドブックを作成し、WEBコンテンツ化しポータルサイトに掲載した。</p> <p>(カ)卓越した技能者(現代の名工)の表彰制度の紹介コンテンツの作成</p> <p>令和2年度及び令和3年度の被表彰者258名のコンテンツを作成し、ポータルサイトに掲載した。</p>



事 項	実 施 状 況
(2) ものづくりマイスター等の認定・登録	<p>イ 技能検定制度等に係るポータルサイト「技のとびら」の保守・管理による情報提供</p> <p>入職促進ガイドブック、グッドスキルマーク、「地域発！いいもの」事例集等を、閲覧者に広く見てもらえるよう、分かりやすい内容でWEBコンテンツ化し掲載した。</p> <p>また、令和3年度においては特に閲覧者がいち早く知りたいと考えられる情報を速やかに最新情報お知らせ欄等に掲載するとともに、SNS（Facebook、Twitter）によりコンテンツ等を積極的に紹介し、アクセスの向上を図った。</p> <p>「技のとびら」のコンテンツの情報更新を合計158回行い、年間のアクセス数は504,012PV（ページビュー）に達した。</p>
	<p>ウ 技能競技大会成績優秀者を活用した若年者のものづくり産業への就業意識の啓発</p> <p>技能五輪国際大会金メダリスト等の派遣</p> <p>コーナーからの技能五輪国際大会金メダリスト等の技能競技大会成績優秀者の派遣等要請に対し、当該成績優秀者や所属企業等と調整を行い、1名の派遣を行った。</p>
	<p>ア ものづくりマイスター推進会議</p> <p>ものづくりマイスター等事業及び若年技能者人材育成支援等事業の施策を広く紹介し、制度の効果的な推進等にかかる意見を聴取し、今後の事業に活かすために、学識経験者、業界団体関係者、事業主団体関係者、労働者団体関係者、企業関係者、技能士会関係者、教育訓練機関関係者、労働組合関係者等の有識者10名を構成員とする「ものづくりマイスター推進会議」を新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンラインで開催した。</p>
	<p>イ 認定基準の改定・通知等</p> <p>認定基準の改定について、令和3年度は実施しなかった。</p>
	<p>ウ ものづくりマイスター・ITマスター・テックマイスター認定申請書の審査等</p> <p>コーナーを経由して提出されたものづくりマイスター、ITマスター及びテックマイスターの認定申請書について、認定委員会において審査を行い、延べ732名のものづくりマイスター、99名のITマスター、及び23名のテックマイスターを認定した。認定者には、コーナーを通じて認定証を交付した。</p>

事 項	実 施 状 況		
	開 催 日	認 定 者 数	
	第1回	令和3年6月8日	ものづくりマイスター 247名 ITマスター 29名 テックマイスター 2名
	第2回	令和3年8月5日	ものづくりマイスター 147名 ITマスター 24名 テックマイスター 6名
	第3回	令和3年10月5日	ものづくりマイスター 129名 ITマスター 29名 テックマイスター 5名
	第4回	令和3年12月16日	ものづくりマイスター 121名 ITマスター 14名 テックマイスター 5名
	第5回	令和4年2月8日	ものづくりマイスター 88名 ITマスター 3名 テックマイスター 5名
(3) ものづくりマイスター等の活用	<p>エ ものづくりマイスター等に係るデータ管理 ものづくりマイスター等に係るデータベースの保守・管理を行い、認定されたものづくりマイスター等の情報をデータベースに登録した。</p> <p>ア ものづくりマイスターを活用した人材育成に関するコンセンサスの形成 以下のパンフレット・事例集等を作成した。 (ア) 「ものづくりマイスター等事業」に係るパンフレット 中小企業や学校等の利用者に分かりやすいパンフレット（電子媒体）を10月に作成し、ポータルサイトに掲載した。さらに紙媒体のパンフレットも23,700部作成し、各500部をコーナーに配付した。 (イ) 「ものづくりマイスター活用事例集」の作成 全国の中小企業（業界団体）及び工業高校等の関係者及びものづくりマイスターに取材を行い、実技指導の内容・効果等について中小企業・団体編11事例（うちITマスター、テックマイスター各1事例含む）、学校編10事例（うちITマスター2事例含む）の事例をまとめ、ポータルサイトへ掲載した。</p> <p>イ コーナーにおけるものづくりマイスターに対する指導技法等講習の実施に関する支援等 (ア) ITマスターの講師に対する研修会の実施 「IT マスターに対する指導技法等講習の講師向け研修会」について</p>		

事 項	実 施 状 況
	<p>て、コーナーに講師の確保状況や参加希望を調査した結果を踏まえ、12月10日にオンライン開催した（19名参加）。</p> <p>講師：特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 副理事長 平田 克二 氏</p> <p>さらに、ものづくりマイスターに対する講師向け養成研修会についても、コーナーにおいて開催の需要が高いことから、11月12日にオンライン開催した（34名参加）。</p> <p>講師：株式会社技術・技能教育研究所 代表取締役 森 和夫 氏</p> <p>(イ) ものづくりマイスターを対象とした事例発表・意見交換会を認定者数の多い職種から、以下の3職種について、2月にオンラインで実施した。</p> <p>【仕上げ職種】 参加者8名（うち発表者2名） 【機械保全職種】 参加者9名（うち発表者2名） 【造園職種】 参加者15名（うち発表者1名）</p> <p>事例発表及び意見交換の結果について、コーナーに提供した。</p> <p>(ウ) 3級技能検定実技試験課題を用いた人材育成マニュアルの動画コンテンツの作成</p> <p>平成28、29年度作成の3級技能検定実技試験課題を用いた人材育成マニュアルのうち、「電子機器組立て職種」（製造業）及び「造園職種」（建設業）について、それぞれ動画作成委員会を設置して動画コンテンツを作成し、ポータルサイトにYouTubeへのリンク及びダウンロード用のデータを掲載した。</p> <p>ウ IT マスターの活動支援</p> <p>ITマスターがコーナーのイベントで使用するロボットについて、円滑に実施運営がなされるよう、センターで一括レンタルした。</p> <p>コーナーから貸出申請を受け付けたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、ほとんどのイベントが中止となったため、わずか10セット分のみ貸出及びメンテナンス業務を行うにとどまった。</p> <p>エ ものづくりマイスター等の派遣による指導の実施等</p> <p>(ア) ものづくりマイスター等の派遣による実技指導の実施</p> <p>全国のコーナーにおいて、中小企業・団体や工業高校等からの要請を受けて、ものづくりマイスター・ITマスター・テックマイスターを派遣し、実技指導を実施した。派遣に当たっては、コーナーにおいて要請先の指導ニーズを的確に把握した上で、効果的な指導となるよう、ものづくりマイスター選定と実技指導内容について適切なコーディネートを実施した。</p>

事 項	実 施 状 況
(4) 全国斉一的な事業展開	<p>【実技指導の実施結果】</p> <p>ものづくりマイスター 全国で 108,658 人日  IT マスター 全国で 4,134 人日  テックマイスター 全国で 439 人日</p> <p>(イ) 「目指せマイスター」プロジェクト</p> <p>a 「ものづくりの魅力」発信  コーナーにおいて、小中学校等や教職員の理解と協力を得て、児童・生徒等に、ものづくりマイスターがその仕事をするようになったきっかけや仕事の内容、仕事の楽しさや辛さなどを直接語り、必要に応じてものづくり体験や事業所見学も行う「ものづくりの魅力」発信の講座を実施。</p> <p>b 「ITの魅力」発信  コーナーにおいて、小中学校等や教職員の理解と協力を得て、児童・生徒等に、情報技術に関する興味を喚起させ、情報技術を使いこなす職業能力の付与実現に向け、IT 技能に関わる楽しさを伝えるために「ITの魅力」発信の講座を実施。</p> <p>【「目指せマイスター」プロジェクトの実施結果】</p> <p>ものづくりマイスター 全国で 55,846 人日  IT マスター 全国で 4,449 人日</p>
	<p>ア 全国会議の開催等によるセンターとコーナー間の連携の強化等  全国会議及びブロック会議を以下のとおりオンライン開催した。</p> <p>(ア) 全国会議  出席者：コーナー  厚生労働省人材開発統括官付能力評価担当参事官室  センター</p> <p>(全国会議については、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、厚生労働省とも協議した上で、4月30日に全コーナーに資料配付を行い、その後、オンラインで参加可能な45都道府県コーナーに対してオンライン会議で配付資料の説明を行った。)</p> <p>(イ) ブロック会議  出席者：コーナー（北海道・東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の各ブロック）  センター</p> <p>イ 活動目標の進捗管理  事業全体の活動目標が確実に達成されるよう、必要に応じてコーナーに状況の確認を行い、状況に応じたアドバイスを行うこと等によ</p>

事 項	実 施 状 況
	<p>り、コーナーの業務進捗状況を的確に把握しつつ、適切な業務指導、業務調整等を行った。</p> <p>ウ 業務に関する質疑・要望等            コーナーから寄せられた質疑・要望等について、厚生労働省に確認の上、センターから回答を行った。            また、ブロック会議で出された要望等については、厚生労働省に報告し、後日コーナーに情報共有を行った。</p>

#### 第4 広報出版・情報資料の提供

事 項	実 施 状 況
1 職業能力開発の推進のための広報活動	<p>技能検定をはじめとする、能力開発・能力評価関連事業の周知・広報のため、次の活動を行った。</p> <p>ア 当協会の事業内容等について、ホームページによる広報活動            ホームページ (<a href="https://www.javada.or.jp/">https://www.javada.or.jp/</a>) にて、技能検定、コンピュータサービス技能評価試験、ビジネス・キャリア検定をはじめ、技能五輪大会等の各競技大会、教育訓練給付制度、若年技能者人材育成支援、2024年技能五輪国際大会について広報を実施した。            アクセス件数：2,301,128件 [2,101,601件]</p> <p>イ メールマガジンの配信            技能検定をはじめとする、当協会の能力開発・能力評価関連事業の広報活動を行うため、「JAVADA情報マガジン」を配信した。            全国版（特別版を含む）：16回 [14回]、都道府県版：4回 [3回]</p> <p>ウ 月刊紙等の紙面を利用し当協会の事業について広報活動を行った。            月刊誌等：3回</p>
2 職業能力開発・評価に関する出版物の発行	<p>次の図書を作成した。</p> <p>ア 令和2年度 特級 技能検定試験問題集            (第1集) 600部            (第2集) 600部</p> <p>イ コンピュータサービス技能評価試験            ワープロ部門 3級 テキスト&amp;問題集 10,000部            ワープロ部門 2級 テキスト&amp;問題集 7,000部            表計算部門 3級 テキスト&amp;問題集 9,500部            表計算部門 2級 テキスト&amp;問題集 4,000部</p>

事 項	実 施 状 況
	ウ キャリア・シフトチェンジのためのワークショップ 「教材セット」 1,000部

## 第5 会務等

事 項	実 施 状 況																										
1 会員及び役員	<p>ア 会員</p> <p>令和4年3月31日現在における会員は、次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>都道府県協会会員</td> <td>47</td> <td>( 47)</td> </tr> <tr> <td>団 体 会 員</td> <td>224</td> <td>(228)</td> </tr> <tr> <td>企 業 会 員</td> <td>61</td> <td>( 62)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>332</td> <td>(337)</td> </tr> </table> <p>注 ( ) 内は、令和3年3月31日現在の会員数である。</p> <p>イ 役員</p> <p>令和4年3月31日現在における役員は、次のとおりである。</p> <table> <tr> <td>会 長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>副 会 長</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>理 事 長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>常務理事</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>理 事</td> <td>31名(副会長、常務理事を除く)</td> </tr> <tr> <td>監 事</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38名</td> </tr> </table>	都道府県協会会員	47	( 47)	団 体 会 員	224	(228)	企 業 会 員	61	( 62)	計	332	(337)	会 長	1名	副 会 長	2名	理 事 長	1名	常務理事	1名	理 事	31名(副会長、常務理事を除く)	監 事	2名	計	38名
都道府県協会会員	47	( 47)																									
団 体 会 員	224	(228)																									
企 業 会 員	61	( 62)																									
計	332	(337)																									
会 長	1名																										
副 会 長	2名																										
理 事 長	1名																										
常務理事	1名																										
理 事	31名(副会長、常務理事を除く)																										
監 事	2名																										
計	38名																										
2 各種会議の開催	<p>ア 総会・理事会</p> <p>(7)第65回理事会</p> <p>a 開催日：令和3年6月21日</p> <p>b 場 所：ハイアットリージェンシー東京（東京都）</p> <p>c 出席者：理事会構成人員36名中36名（含委任状）</p> <p>d 議 長：会長 釜 和明</p> <p>e 議事次第</p> <p>(a)議決事項</p> <p>第1号議案 令和2年度事業報告（案）に関する件</p> <p>第2号議案 令和2年度収支決算（案）に関する件</p> <p>上記議案について審議し、原案のとおり了承された。</p> <p>(b)報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員及び参議の選任について</li> <li>・会員の加入について</li> <li>・令和2年度事業計画及び収支予算の変更について</li> </ul> <p>(イ)第42回通常総会</p>																										

事 項	実 施 状 況
	<p>a 開催日：令和3年6月21日</p> <p>b 場 所：ハイアットリージェンシー東京（東京都）</p> <p>c 出席者：会員総数335名中287名（含委任状）</p> <p>d 議 長：会長 益 和明</p> <p>e 議事次第</p> <p>(a)議決事項</p> <p>第1号議案 令和2年度事業報告（案）に関する件</p> <p>第2号議案 令和2年度収支決算（案）に関する件</p> <p>第3号議案 令和3年度事業計画（案）に関する件</p> <p>第4号議案 令和3年度収支予算（案）に関する件</p> <p>上記議案について審議し、原案のとおり了承された。</p> <p>(b)報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員及び参議の選任について</li> <li>・会員の加入について</li> <li>・令和2年度事業計画及び収支予算の変更について</li> </ul> <p>(ウ)第66回理事会</p> <p>a 開催日：令和4年3月23日</p> <p>b 場 所：ホテル グランドアーク半蔵門（東京都）</p> <p>c 出席者：理事会構成人員36名中36名（含委任状）</p> <p>d 議 長：会長 益 和明</p> <p>e 議事次第</p> <p>(a)議決事項</p> <p>第1号議案 令和4年度事業計画（案）に関する件</p> <p>第2号議案 令和4年度収支予算（案）に関する件</p> <p>上記議案について審議し、原案のとおり了承された。</p> <p>(b)報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX積立金の創設について</li> </ul> <p>イ 第43回参与会議</p> <p>(ア)開催日：令和4年2月21日</p> <p>(イ)場 所：Web会議形式によりオンラインで開催</p> <p>(ウ)座 長：赤松 明 氏</p> <p>(エ)次 第：令和3年度事業実績（第3四半期まで）について</p> <p>ウ ブロック別会議</p> <p>中央協会と都道府県協会とが一体となり事業を推進していくため、事業全般の諸課題等について、中央協会と都道府県協会との意見交換や情報提供等を目的とした会議をWeb会議形式によりオンラインで開催した。</p>

事 項	実 施 状 況
	<p>(ア) 第1回</p> <p>a 北海道・東北ブロック 令和3年11月18日</p> <p>b 関東・甲信越ブロック 令和3年11月11日</p> <p>c 東海・北陸ブロック 令和3年11月19日</p> <p>d 近畿ブロック 令和3年11月15日</p> <p>e 中国・四国ブロック 令和3年11月25日</p> <p>f 九州ブロック 令和3年11月22日</p> <p>(イ) 第2回</p> <p>a 北海道・東北ブロック 令和4年2月15日</p> <p>b 関東・甲信越ブロック 令和4年2月7日</p> <p>c 東海・北陸ブロック 令和4年2月4日</p> <p>d 近畿ブロック 令和4年2月10日</p> <p>e 中国・四国ブロック 令和4年2月14日</p> <p>f 九州ブロック 令和4年2月14日</p>
<p>3 都道府県協会職員研修の実施</p>	<p>協会職員の資質・能力の向上を図るため、次のとおり研修を実施した。</p> <p>(ア)開催日：令和4年2月18日</p> <p>(イ)場 所：Web会議形式によりオンラインで開催</p> <p>(ウ)内 容：Web会議を活用した事業運営方法</p>
<p>4 コンプライアンス委員会の開催</p>	<p>コンプライアンスの徹底を図るため、コンプライアンス委員会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回：令和3年7月20日</li> <li>・第2回：令和3年11月24日</li> <li>・第3回：令和4年1月25日</li> </ul>



事 項	実 施 状 況																				
5 会長表彰等	<p>・第4回：令和4年3月29日</p> <p>職業能力の開発及び向上の促進を図り、技能者の意気高揚を促し技能尊重気運を醸成するため、「職業能力開発事業関係」、「技能検定事業関係」及び「技能振興事業関係」の事業所、団体及び功労者に対し会長表彰を行った。</p> <p>被表彰者：205件（202件）</p> <table border="1" data-bbox="507 533 1412 790"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職業能力 開発事業 関係</th> <th colspan="2">技能検定事業関係</th> <th rowspan="2">技能振興 事業関係</th> </tr> <tr> <th>中 央</th> <th>都道府県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業所及び団体</td> <td>2 [ 2]</td> <td>3 [ 6]</td> <td>19 [ 16]</td> <td>0 [0]</td> </tr> <tr> <td>功 労 者</td> <td>23 [23]</td> <td>24 [25]</td> <td>118 [119]</td> <td>16 [11]</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	職業能力 開発事業 関係	技能検定事業関係		技能振興 事業関係	中 央	都道府県	事業所及び団体	2 [ 2]	3 [ 6]	19 [ 16]	0 [0]	功 労 者	23 [23]	24 [25]	118 [119]	16 [11]
区 分	職業能力 開発事業 関係	技能検定事業関係		技能振興 事業関係																	
		中 央	都道府県																		
事業所及び団体	2 [ 2]	3 [ 6]	19 [ 16]	0 [0]																	
功 労 者	23 [23]	24 [25]	118 [119]	16 [11]																	
6 職業訓練生災害傷害 保険制度の推進	<p>職業訓練施設に在籍する訓練生の訓練中又は通校途中の傷害事故に対する保険制度を次のとおり実施した。</p> <table border="1" data-bbox="507 981 1412 1227"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>公 共</th> <th>認 定</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加 入 者</td> <td>40,394名 [39,985名]</td> <td>712名 [593名]</td> <td>41,106名 [40,578名]</td> </tr> <tr> <td>支給件数</td> <td>754件 [749件] 【0件 [1件]】</td> <td>7件 [11件] 【0件 [0件]】</td> <td>761件 [760件] 【0件 [1件]】</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 支給件数欄中の【 】内の数値は、死亡事故に係る支給件数で内数である。</p>				区 分	公 共	認 定	合 計	加 入 者	40,394名 [39,985名]	712名 [593名]	41,106名 [40,578名]	支給件数	754件 [749件] 【0件 [1件]】	7件 [11件] 【0件 [0件]】	761件 [760件] 【0件 [1件]】					
区 分	公 共	認 定	合 計																		
加 入 者	40,394名 [39,985名]	712名 [593名]	41,106名 [40,578名]																		
支給件数	754件 [749件] 【0件 [1件]】	7件 [11件] 【0件 [0件]】	761件 [760件] 【0件 [1件]】																		

